

くらし

錦織監督

映画の現場から



島根の魅力と底力は説明しづらい。だからこそ映画にしなければ、と隠岐の映画を撮った。編集真っ最中であるが、皆さんに喜んでもらえる作品になると思う。ご期待いただきたい。

さて、今年も日本一長い映画祭の「しまね映画祭」は、9年目を迎えた「しまね映画塾」の塾生作品発表会をクロージングイベントとして催し、先日閉幕した。あらためて、継続することのすごさを感じている。

今年の開催は安来市。安来名画シアターの皆さんやお手伝いいただいた安来の皆さんに感謝したい。実は安来は今年で2回目の開催となる。なぜかという、1回目の開催後、安来の皆さんはもう一度やりたい、という思いです。と他の地での開催に参加してこれ

しまね映画祭クロージング



しまね映画祭 クロージングイベント
しまね映画塾2011 in 安来 作品発表

「しまね映画祭」のクロージングイベントとして安来市で行われた「しまね映画塾」の作品発表

守り、残すことの大切さと難しさ

●●16

だからだ。やってみたいな...ではなく、ぜひやりたい!という強い思いが皆さんにあった。

もともと、この映画塾は、島根でしかできない塾にしよう、イベントを催す人も参加する人も燃え上がる塾にしたい、やったことにしない!のスローガンのもとにスタートした。

塾生の思いや主催者側の思いがなくなったらやめる、とみんなで申し合わせて始めたので(随分勇ましい)、どこよりも前向きな安来での開催となった。手前みそではあるが、スタッフ側には、他ではできない映画塾、という自信がある。正確にはその自信が既に芽生えている。

他府県の参加者が年々増え、学生さんも高い交通費を払って島根入りしている。それはこの映画塾が他にないモノ、島根でしかできないものだからだ。食事のうまさや、景色の美しさ、遺跡の存在などももちろんだが、参加者は一様に開催地のコミュニティーの素晴らしさに驚く。つながりや絆といった、目に見えないモノに魅力を感じるようだ。だからこそ、エキストラの皆さんとたくさんのお客を行う2泊3日の合宿が乗り切れるのだ。年齢も住んでいるところも違う初めて会った10組のチームが、地域に溶け込んで作品を撮れるのも、そのおかげなのだ。

今回も作品からその力を感じとった。今年が安来ということもあって、塾生作品が「どじょうすくい」『安来節』に集中した。ご存じの通り、安来はそれだけではない。歴史的にも本物が残る素晴らしいところだ。しかし、ワンフリーズで分かりやすくと、多くの人々への浸透は早い。ここが難しい。どこか1カ所にスポットを当てると、後は全部陰になる。時間がかかるかもしれないが、光の当たらない本物を知ってもらうこそ、多くのリピーターを生む近道ではないかと思う。

現に、遠くからやって来る県外からの参加者のほとんどがリピーターなのだから。

(錦織良成・映画監督)

第2、4金曜掲載